

「啐啄同時」の心にお委ねして

—「齋藤文庫」の公開に寄せて—

齋藤壽始子（児童文化研究会ささゆり舎）

ありがたいこと、真にありがたい幸せが古稀を迎える私の身に訪れました。まさか、我が名の付された「文庫」が誕生しようとは、夢にも考えた事はありませんでした。しかも京都教育大学の附属図書館に。

児童文学、児童文化の分野にも、名だたる書籍のコレクターはおいでになります。引き比べて私の場合は、たまたま在職させていただいた大谷大学の図書館は、仏教関係の書籍で蔵書構成をなされていたので、児童文化や児童文学への予算を回して頂くのが憚られました。そこで、自分の講義と研究に必要なジャンルの書籍を出来るだけ買い求め研究室に置かせていただきました。そして凡そ四半世紀を経て、財団法人大阪国際児童文学館へ移る事になり、研究室をお返りする時がまいりました。

ところが、思いもかけない事情で再び書架を移動することになりました。書架を設置した時にお世話になった図書館家具の規文堂営業部長の河上博さんにご相談し、撤去した書架の引取先を探していただくことになりました。次にいただいた河上さんのお電話は思いがけないものでした。「書架はいらないが児童文化・児童文学に関わる中身を申し受けよう」とのお話があるとのこと。

さて、思案しました。最初は「私はまだ研究を止めた訳ではない。書籍や資料は手放すつもりは毛頭ないが。」と申しました。しかし「古稀の今後は仕事の幅も量も限られてくる。多くは死蔵になろう。私はもともとコレクターではなかった。

講義のため、学生指導のために集めた資料なら、これを生かして頂く道は願ってもないことではないか」と。この結論に至るまでそれほど時間はかかりませんでした。今後、10年でどれだけの仕事をしておきたいか。これに必要な資料を残し、またこの資料もいずれ追ってお届けする。こうしたお願いを申し上げてご快諾をいただきました。

この度の件には、人の計らいを超えたご縁を感じずにはられません。まことにありがたいことです。

学長位藤紀美子先生とは、若い日に、日本児童文学学会でお出会いし、「日本児童文学大系」の執筆者として名を連ねておりました。図書館長の松良俊明先生にはこの道筋を開いていただきました。館員の方々には真夏に荷物の運搬の手配から埃の積もった資料の分別・整理にご尽力いただきました。規文堂さんにも随分面倒を見て頂きました。

「感謝状」と「記念品」を頂戴するために寄せて頂いた学長室には、二代学長山内得立先生の「啐啄同時」の書が掲げられて居りました。うかがえば大学のマスコットキャラクター「そったくん」はこの語に由来しているとのこと。コレクターでもない私の資料は、求める学生さんや後進への教材として集めたものでした。まさしく「啐啄同時」。収まるべき所を得たと合点いたしました。因みに山内得立先生は、私の恩師で卒寿を迎えられた京都女子大学名誉教授中川正文先生の御伯父上に当たられます。振り返れば平成9年から平成11年には非常勤講師と

して児童文学の講義も務めさせていただいております。当時の学長加茂直樹先生、国文科にご在職であった坪内稔典先生のご縁へと辿らせて頂くと、日々を疎かに生きてはならないと思います。「啐啄同

時」、私も一羽の雛としてこれからも研究の卵の殻を破り続けたいと願います。ご縁とご厚情に心よりお礼を申し上げ、京都教育大学並びに同附属図書館のご繁栄を祈念して感謝の文と致します。



「斎藤文庫」とは？

斎藤壽始子先生よりご寄贈頂いた、4000冊以上の児童書およびその研究書のコレクションです。現在登録作業を進めており、作業の終わったものから書架に並べています。

＜ 斎藤文庫の書架の一例 ＞

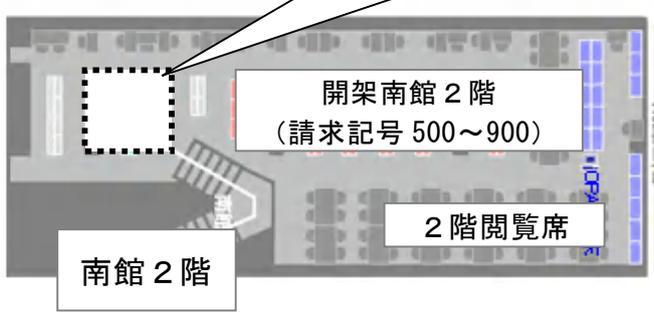


国内外の児童文学や絵本、また児童文学の研究書などが豊富に取りそろえられています。学習・研究等にはもちろん、昔読んだ懐かしい本を探してみるのもいいかもしれません！



12月には、斎藤文庫の絵本の中からクリスマスに関するものを集めて、ゲート横にクリスマスコーナーを作りました。
なかなか好評だったようです★

「斎藤文庫」は南館2階の、階段を上がって左手に配置されています。
どうぞご利用ください。



～ 図書館開館スケジュール ～

2011年 1月

日	月	火	水	木	金	土
						1 休
2 休	3 休	4 休	5 ▲	6 ●	7 ●	8 ▲
9 休	10 休	11 ●	12 ●	13 ●	14 休	15 休
16 休	17 ●	18 ●	19 ●	20 ●	21 ▲	22 ▲
23 休	24 ●	25 ●	26 ●	27 ●	28 ●	29 ▲
30 休	31 ●					

2011年 2月

日	月	火	水	木	金	土
		1 ●	2 ●	3 ●	4 ●	5 ▲
6 休	7 ●	8 ●	9 ●	10 ●	11 休	12 ▲
13 休	14 ●	15 ●	16 ●	17 ●	18 ●	19 ▲
20 休	21 ●	22 ●	23 ●	24 ●	25 休	26 休
27 休	28 ●					

＜カレンダーの見方＞

日付	9:00~21:00
●	
日付	9:00~17:00
▲	
日付	休館日
休	

1月14日、15日はセンター試験のため休館
2月25日、26日は前期入試のため休館



第15回 「うたとおはなしの会」 報告

開催年月日 : 2010年12月12日(日) 11:00~12:00



「うたとおはなしの会」は今回で第15回を迎え、クリスマスシーズンでの開催は3回目になります。当日は、晴天にも恵まれ101人の参加者で会場は熱気に包まれました。

まずオープニングは、子どもたちに人気の「うさぎのはらのクリスマス」の音楽にのって、子うさぎたちが踊りだすと子どもたちも一緒に手拍子したり身体をゆらしたりするなど、楽しそうな表情が見られました。そして、大型絵本「もりのおふろ」、手遊びを交えたエプロンシアター「くいしんぼうゴリラ」などを楽しんだ後、人形劇「おおかみと7ひきの子やぎ」が始まりました。

既に絵本や紙芝居などでお話を知っている子どもたちも多かったようですが、人形劇で見るのは初めてとあって、始まる前からとても興味深そうでした。今回は「おおかみ」と「子やぎのお母さん」を人間が演じ、けこみの中と外でやりとりする方法をとりました。この演じ方は観客との一体感を生み、子どもたちをお話の世界にぐっと近づける上で効果的な演出となっていました。例えば、おおかみがドアをたたいて子やぎに話しかけるシーンでは、そのやりとりをときどきしながら見守ったり、狼をやっつけて7ひきの子やぎたちが喜び踊るシーンでは、子どもたちも一緒になって身体をゆらしたり歌を口ずさんだりする姿が見られました。



人形劇を楽しんだ後は、マンドリンやギターを中心に10人の弦楽合奏団が登場しました。大人の背丈より大きなコントラバスや卵みみたいな形のマンドリンなど、初めて見る楽器の登場に子どもたちは身を乗り出し興味津々の様子でした。まず1曲目の「赤鼻のトナカイ」の演奏が始まると、そのきれいな音と楽しい雰囲気子どもたちはますます目を輝かせ、一緒に口ずさんだりお母さんの膝の上でおしりをぴょんぴょんはずませたりして喜び姿が見られました。そして2曲目の「ジングルベル」では、子どもたちもカスタネットやすすずを持って楽隊のお兄さんやお姉さんと一緒に演奏に参加し、大喜びの様子でした。

楽器あそびでクリスマス気分が盛り上がった後は、手遊び「おちたおちた」のクリスマスバージョンを楽しみ、最後の演目パネルシアター「クリスマスのサンタ」が始まりました。サンタさんはクリスマスの日は何をして過ごすのかな?という子どもたちの素朴な疑問に答える可愛らしいお話で、子どもも大人も楽しんで見ることができました。

そしてお別れは幼児教育科1回生14人が「サンタが町にやってくる」をトーンチャイムで演奏し、美しい響きに包まれ和やか雰囲気に包まれて閉会しました。終了後のアンケートでは、「あまり、人形劇を見る機会がないので子どもがすごく楽しんで見ていました」「珍しい楽器の演奏に、大人も子どももほっとりと癒されました」「未来の幼稚園の先生たちがとても、初々しくて可愛かったです」など、好意的な感想がたくさん寄せられました。これら一つひとつの意見や感想を大切に、この会を楽しみにやってくる子どもたちや保護者の気持ちに答えられるよう、今後も学生と共に努力を重ねていきたいと思えます。

(幼児教育学科 平井恭子准教授)



求められる生徒指導主事像

— 中学校生徒指導主事へのアンケートから —

片山紀子* 大村優** 関貫林太郎** 涌井陽介**

京都教育大学紀要 No. 117 p. 17-34 2010年9月

私たちは、京都教育大学大学院連合教職実践研究科(教職大学院)の生徒指導力高度化コースに、教員および院生として在籍しています。お互いに、生徒指導の中核となる教員を輩出しようと、あるいは生徒指導の実践的な力を持ち、将来生徒指導の中核となる教員になろうと、日々研鑽しているところです。生徒指導は、全ての教員が日常的に行うものではありませんが、組織としての生徒指導は、中学校においては生徒指導主事の中核を担うこととなります。

そこで今回、どのような生徒指導主事像が現場では求められているのかを把握するために、近畿圏都市部中学校の生徒指導主事を対象にアンケート調査を行いました。アンケートの対象としたのは、近畿圏に位置する中学校(京都市・吹田市・寝屋川市・神戸市・奈良市・生駒市・橿原市)、計223校の生徒指導主事で、回収率は51.1%でした。郵送方式としては高い回収率であったといえ、現場の生徒指導主事にとっても関心の高いテーマであったように思います。

調査からは、生徒指導主事の生の姿として、平均年齢が38.4歳であること、92.1%が男性から成ること、担当科目は保健体育の教員が最も多く35.1%を占めていること等が見えてきました。同時に、「生徒指導の体制作り」及び「教員との調整」に苦慮する生徒指導主事の姿が、鮮明に浮かび上がる結果となりました。校内で教員をいかにうまく協働させていくのか、その組織作りが難しいことを露呈するものとなったのです。生徒に対して生徒指導を行う前に、教員同士のつながりが脆い状態にあることがうかがえました。

最後に、本調査の目的である、求められている生徒指導主事の資質としては、「コーディネート力に長けたリーダーシップ力」、「深い生徒理解力」、「法的知識を備えた問題解決力」が不可欠であることをつかむことができました。今回の調査は、生徒指導力高度化コースで学ぶ者にとって、臨床的な課題がどこにあるのかに気づくことができ、意味ある調査になったと考えています。

* 片山紀子：京都教育大学大学院 連合教職実践研究科 教授

** 大村優・関貫林太郎・涌井陽介：同研究科生徒指導力高度化コース2回生

本タイトルの論文は京都教育大学紀要117号に掲載されています。

京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/>からも閲覧可能です。

● 京都教育大学附属図書館ホームページはこちらから <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

● 携帯版図書館ホームページはこちらから <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm>

下記のQRコードからもアクセスできます



京教図書館 News No. 124 (2011年1月号)

発行日：平成23年1月5日

編集発行：京都教育大学附属図書館

内容に関するお問い合わせ先：library@kyokyo-u.ac.jp